

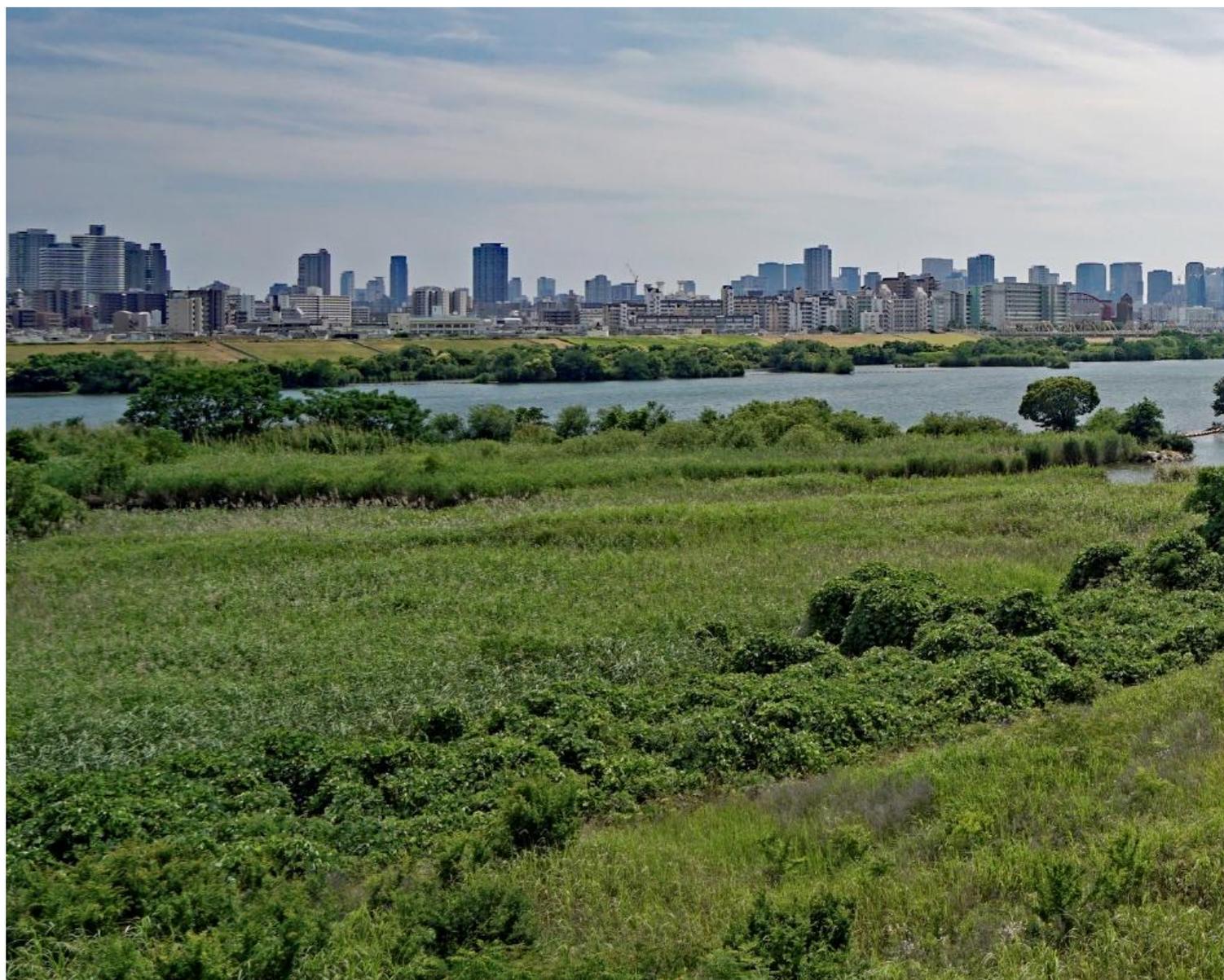
平成31年3月5日

資料

淀川の魅力ある 景観づくりに向けて (案)



大阪府
平成31年3月



目次

はじめに	P2
1.淀川の変遷	P3
2.淀川の景観	
2-1 対象範囲	P5
2-2 景観の捉え方	P5
3.景観づくりの基本目標と基本方針	
3-1 基本目標	P7
3-2 基本方針	P7
4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取組み	
4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み	P9
4-2 景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み	P9
4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み	P10
4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信	P10
むすび	P11
参考資料 淀川における景観資源の活用事例	P12
他の河川における景観資源の活用事例	P16
淀川の魅力ある景観マップ1～3	P20



はじめに

- 大阪都市圏の都市空間創造に向けた大きな方向性を示すグランドデザイン・大阪都市圏では、広域連携型都市構造を踏まえた都市空間創造の例として、淀川において「沿川市町が持つ個性豊かなストックやポテンシャルを活かした様々な取組みを、関係者が連携して進めることで、一層の集客魅力あふれる都市空間を創造する」としています。
- また、大阪府の景観形成の方向性を示す都市景観ビジョン・大阪では、「河川軸において、川とかわりの深い周辺の歴史文化遺産等との調和やつながりを意識するなど、川との関係を活かした景観を形成するとともに、地域の特性や自然との共存、安全性に配慮した親水空間づくり、河川沿いの緑地の保全等を図る」としています。
- さらに、淀川沿川を魅力あふれる都市空間とすることをめざし、沿川まちづくり団体等が自由に意見交換を場として設立された「淀川沿川まちづくりプラットフォーム（※P11参照）」において「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」が策定され、魅力ある景観の形成に取り組むこととしています。
- これらを踏まえ、淀川の魅力ある景観づくりを促進するため、自然、歴史・文化、沿川で営まれる様々な活動等の景観資源を広域的な観点から整理し、景観づくりにかかわるすべての人々が共有する基本目標や景観資源を活用した様々な取組み等を取りまとめた方針を示すものです。

1. 淀川の変遷



縄文時代前期
約7000年～8000年前

1. 古代

およそ2万年前の大阪は、現在よりも平均気温が低く、海水面も低かったため、大阪湾や瀬戸内海は陸地でしたが、海水面の上昇により、海岸線が形成され、縄文時代前期になると、上町台地が半島のように突き出し、その東に河内湾ができました。縄文時代中期から、河内湾は、海面の後退とともに、北東から淀川、南東から大和川などが運ぶ土砂の堆積により徐々に埋まっていきました。縄文時代末期には、河内湾が大阪湾と切り離され、弥生時代中期には、淡水化し河内湖となりました。その後も土砂の堆積は続き、河内平野が形成されました。



弥生時代後期
～古墳時代前期
約1800年～1600年前

2. 中世

中世の大阪平野には、いくつもの川が縦横無尽に流れており、中でも淀川は、瀬戸内海や西国と京の都を結ぶ交通の大動脈としての役割を担っていました。大阪は「水の都」として発展し続けましたが、その一方で、洪水がたびたび発生し、大きな被害に見舞われていました。

この頃の淀川には、いたるところに上流から流れてきた土砂が溜まってできた浅瀬があり、船の交通路としては不安定なものでした。このため、流域各地で、多くの住民が力を合わせ、川底に溜まっている土砂をさらったり、土地の埋め立てを行いました。また、淀川の水は農作にとっても重要な資源でした。このように、人々の暮らしと淀川は密接にかかわっていました。



江戸時代～明治時代
約400年～120年前

3. 近世

近世の大阪平野は、日本の政治・経済・文化の中心の1つであり、淀川はその発展の重要な基盤でした。

豊臣秀吉は、1594年、伏見城築城の際、伏見港の繁栄と巨椋池の洪水を防ぐことを目的とした「太閤堤」を築きました。

また、秀吉は、連続した堤防がなかった淀川左岸に、枚方から長柄に至る連続した堤防「文禄堤」を築きました。これにより、河内平野は氾濫から守られるとともに、堤防の上は、京街道として大阪と京都を結ぶ最短で安定した交通路となり、多くの人が行き交いました。右岸の西国街道とあわせて、街道沿いは宿場町として発展しました。

江戸時代に「天下の台所」として栄えた大阪では、縦横に流れる川が、物流ネットワークとして機能し、現在の大川・中之島付近には、諸藩の蔵屋敷が建ち並びました。大阪・八軒家から京都・伏見までを航路とする三十石船で、全国から大阪に集まった物資や物産は京の都へ、都の文物は大阪へと運ばれ、経済の大動脈としての役割を果たしていました。

こうして、淀川の恩恵を受けて、淀川兩岸のまちが発展していきました。



現代



大池（巨椋池） 都名所図会
(資料提供：国際日本文化研究センター)



(八軒家)



(柱本)

淀川兩岸一覽（1861年に描かれた名所図絵）

4.明治期

明治期の淀川は土砂堆積によって川床が上昇し、航路として機能していませんでした。

これらを解消するため、明治8年から、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが中心となり、日本で初めて水制工により、水路を蛇行させ、流れを緩やかにする淀川修築工事が行われました。これにより、川の流れは中央に集まり、航路の水深は確保されました。そこに土砂等がたまり、偶然にもワンドが形成され、水生生物が育ちやすい環境ができました。

また、明治18年の洪水による大きな被害で、明治29年に河川法が制定され、上流から下流まで流域全体を見据えたスケールの大きい考え方に基づく淀川改良工事が始まりました。この工事では、新淀川の開削のほか、毛馬閘門と毛馬洗堰の建設などが行われました。

大阪市で上水道が通る明治28年まで、大阪の人々は飲用水として淀川の水を飲んでいました。次第に、人々の生活水の確保、伝染病の防止、火災への対応といった声に応えるため、淀川の水を水源とした上水道が開業しました。

5.昭和期～現代

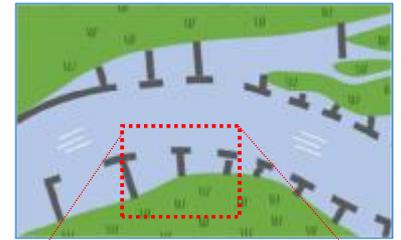
淀川の水質は、生活排水や工場排水などが原因となり、昭和30年代から急速に悪化しましたが、昭和40年代以降、下水道整備が進められ、住宅からの排水が浄化処理されるようになったことで、水質は回復しました。これにより、河口域では、漁業が再開され、現在も大阪の食文化を支えています。

また、水制工によって、蛇行させられた淀川（写真A）は、大阪を洪水から守るため、本流の幅が大きく広げられ、直線化（写真B）されました。その結果、洪水による被害は大幅に軽減されました。一方で、生き物にとって大切な湿地環境が減ることとなりましたが、献身的な住民の方々の取り組み等もあり、その環境は少しずつ改善されています。

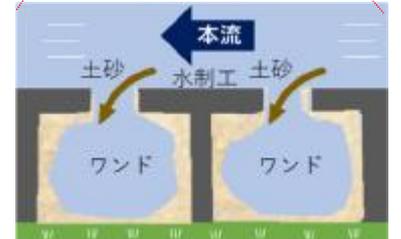
かつて盛んだった舟運は、自動車や鉄道の発展、橋梁の完成等とともに衰退していきましたが、近年では、観光船の定期便も復活し、今後淀川沿川の更なる発展が期待されています。

このように、淀川流域は古くから政治、経済、文化の中心として、様々な人の活動が営まれ、琵琶湖～瀬戸内海を結ぶ舟運のネットワークとして、多くの人や物が流域を往来してきました。また、淀川の歴史は、度重なる洪水などにより水害との戦いの歴史でもあったとも言えます。

現在は、自然豊かな地域から河川公園等の様々な活動がみられる地域まで多様な特徴を持ち、干潟やワンド等には琵琶湖・淀川水系の固有種や希少種を含む、様々な生き物が生息しています。



水制工の平面配置イメージ



水制工によるワンド形成のイメージ



写真A：淀川の河道(1971年)
(国土地理院の空中写真を加工して作成)



写真B：淀川の河道(2006年)
(国土地理院の空中写真を加工して作成)



淀川の希少種 イタセンパラ



シジミ漁

(写真提供：大阪市漁業協同組合)



献身的な住民の方々の取り組み



大川の観光船

2. 淀川の景観

淀川には、四季に富んだ自然や、様々な歴史・文化資源、時間帯や見る場所によって多彩な表情を見せる構造物や建築物があります。

また、これらの静の景観だけではなく、自然保全やにぎわいの活動、舟運や鉄道などの動の景観も、淀川の景観を考える上で重要な要素です。

そこで、淀川にかかわる「コト」すべてが景観づくりにつながると捉え、淀川で活動するすべての人々の取組みの参考となるよう、淀川の景観を捉える際の考え方を示します。

2-1 対象範囲

河口（淀川距離標0.00km地点）から伏見（三栖閘門付近）までと、現在、舟運が就航している、旧淀川である大川の一部（八軒家浜～毛馬閘門）を含む範囲とします。



2-2 景観の捉え方

景観を捉える上で、淀川本来の自然環境をベースに、目に見えるものだけではなく、景観資源がもつ、歴史・文化等の社会的背景やその成り立ちも含めて考えることが重要です。

また、淀川の治水・利水の機能や淀川が生物の生育の場であることを理解した上で、景観を捉えることが重要です。

そこで、淀川の景観資源を次の4種に分類して、淀川の景観を考えることとします。

- ①自然・生物 : 夕日・朝日、川面、ワンド、干潟、ヨシ原、野鳥、野草 など
- ②都市・インフラ : 橋梁、建築物、船着場 など
- ③歴史・文化 : 渡し船跡の碑、洪水碑、歴史的建造物 など
- ④活動・にぎわい : 河川空間を活用したイベント、舟運 など



さらには、景観は複数の要素（空、山、構造物等）の組み合わせによって構成されており、これらの関係（形、色、組み合わせ等）を意識し、季節、時間帯などの時間軸も考慮して景観資源の魅力を整理（夜景、夕日、桜、イベント等）することが重要です。

淀川の主な景観資源

	自然・生物	都市・インフラ	歴史・文化	活動・にぎわい
遠景	<input type="checkbox"/> 空（青空、星、月） <input type="checkbox"/> 山並み <input type="checkbox"/> 海岸 <input type="checkbox"/> 夕日・朝日 <input type="checkbox"/> 災害（増水など） <input type="checkbox"/> 天候 （晴れ、雨、雪など） <input type="checkbox"/> 川霧 <input type="checkbox"/> 川面 （反射、波など） <input type="checkbox"/> 淀川河川公園 <input type="checkbox"/> 法面の花、緑地 <input type="checkbox"/> ワンド <input type="checkbox"/> ヨシ原 <input type="checkbox"/> 干潟 <input type="checkbox"/> 背割堤 <input type="checkbox"/> 桜（紅葉） <input type="checkbox"/> 遊歩道 <input type="checkbox"/> 野鳥 <input type="checkbox"/> 野草 （スキ、彼岸花など） <input type="checkbox"/> 昆虫 <input type="checkbox"/> 水生生物 （カニ、貝など）	<input type="checkbox"/> 超高層ビル群 <input type="checkbox"/> 大規模建築物等 ・さきしまコスモタワー ・梅田スカイビル ・グランフロント ・レッドホース オオサカ ホイール ・高压鉄塔 など <input type="checkbox"/> ひらかたパーク （大観覧車） <input type="checkbox"/> 淀川河川公園 <input type="checkbox"/> 浄水場 <input type="checkbox"/> 橋梁 <input type="checkbox"/> 水管橋 <input type="checkbox"/> 淀川大堰 <input type="checkbox"/> 閘門・水門・排水機場 <input type="checkbox"/> 取水施設 <input type="checkbox"/> 煙突 <input type="checkbox"/> さくらであい館 <input type="checkbox"/> 水位観測所 <input type="checkbox"/> 緊急用船着場 <input type="checkbox"/> 工作物 （看板など）	<input type="checkbox"/> 淀川兩岸一覽 <input type="checkbox"/> 都名所図会 （ <input type="checkbox"/> 三十石船唄） <input type="checkbox"/> ひらかたパーク （大観覧車） <input type="checkbox"/> 堤 <input type="checkbox"/> 橋梁のライトアップ <input type="checkbox"/> 神社仏閣 （石清水八幡宮 など） <input type="checkbox"/> 旧毛馬第一閘門 <input type="checkbox"/> 造幣局 <input type="checkbox"/> 三栖閘門 <input type="checkbox"/> 渡し船跡の碑 <input type="checkbox"/> くらわんか発祥地碑 <input type="checkbox"/> 洪水碑 <input type="checkbox"/> 爆弾池 <input type="checkbox"/> 三十石船唄	<input type="checkbox"/> 飛行機 <input type="checkbox"/> 舟運 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> なにわ淀川花火大会 <input type="checkbox"/> 河川空間を活用し たイベント活動 ・淀川アーバンキャンプ、 ・淀川わいわいガヤガヤ祭り ・天の川伝説 など <input type="checkbox"/> 水防活動 <input type="checkbox"/> ワンド・ヨシ原保全活 動 <input type="checkbox"/> スポーツ ・サイクル ・ジョギング ・野球 ・散歩 など <input type="checkbox"/> 漁業 （シジミ漁、うなぎ漁など） <input type="checkbox"/> 水上アクティビティ （カヌー、SUPなど） <input type="checkbox"/> 釣り
近景				

3.景観づくりの基本目標と基本方針

淀川の魅力ある景観づくりを進めていくためには、淀川で活動するすべての人々が誇りと愛着を持ち、沿川にある多様な魅力的な景観資源を守り、育て、活用していくことが重要です。

そこで、沿川の住民、まちづくり団体、企業等が景観づくりに携わる際の基本目標と基本方針を定めます。

3-1 基本目標

「大河川・淀川の景観魅力の向上を通じた、
多くの人々が享受できる様々な恵みの保全と創造」



菅原城北大橋付近



背割堤の桜

3-2 基本方針

1 淀川の豊かな自然環境の保全や再生への意識を共有し、地域の特徴を活かした取組みの促進

ワンドや干潟の役割や保全活動の重要性について情報発信するとともに、自然が身近に感じられる取組みを促進することで、淀川への関心や愛着を育てます。



城北ワンド



清掃活動

(写真提供：ねや川水辺クラブ)

2 淀川の歴史や文化等のストーリー性を楽しめるようにすることで、景観資源の魅力を高める取組みの促進

景観資源が持つ歴史的な背景やその成り立ち等をあわせて発信したり、景観資源が持つ特徴を活かす工夫をすることで、多様な人々の関心をひく仕掛けづくりを行います。



三栖閘門



淀川兩岸一覽

3 淀川沿川の多様な景観資源を効果的に活用し、多様な主体が連携しながら、川とまちが一体となったまちづくりの促進

多様な主体が連携し、川と人をつなぐ活動を継続的な取組みとすることで、新たな景観を創出し、景観魅力あふれるまちづくりを促進します。



淀川河川公園 枚方地区



淀川河川公園 赤川地区

4 淀川の魅力ある景観を多様な主体により効果的に情報発信

淀川の景観魅力や各地域で行われている様々な取組みを、多様な主体が、多様な手段により、効果的に情報発信することで、他の方針にかかる取組み、まちづくりを促進します。



さくらであい館
(写真提供：八幡市)



まちづくり団体、企業等による情報発信

4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取組み

淀川では、多くの住民、まちづくり団体、企業等が、魅力ある景観づくりにつながる活動に取り組んでいます。今後、更なる景観魅力の向上に向け、様々な主体がそれぞれの役割の中で、景観づくりに携わることができる取組みを示します。

4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

○自然景観を維持・保全していくためには、沿川の住民や企業が担い手となり、自然保全活動等に取り組むことが重要です。そのため、淀川への関心や愛着を高め、自然保全に対する意識の向上を図る取組みを促進します。

- ・学校や地域活動の場を通じた自然保全等の河川教育
- ・企業と共同した清掃活動 など

○淀川の自然景観を楽しむことができる取組みや、河川空間が日常的な生活空間として利用される取組みを促進することで、淀川が持つ自然景観への関心を高め、自然保全の意識の向上を図る取組みを促進します。

- ・地域住民参加で取り組む河川が日常的な生活空間として利用されるための仕掛けづくり
- ・気球からの自然景観の観賞等、自然の雄大さを感じることができる新たな視点場の創出 など



地域団体による自然体験学習



企業等による清掃活動
(写真提供：ねや川水辺クラブ)



気球からの自然観賞
(写真提供：淀川河川公園管理センター)

4-2 淀川の景観資源が持つ、歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

○目に見える景観だけでなく、過去の情景や歴史的な背景等をあわせて伝えることで、景観資源の魅力を高め、多くの人の関心を引く取組みを促進します。

- ・デジタル古地図等の活用による船内コンテンツの充実
- ・景観資源が持つ歴史・文化的背景等の特徴を記した景観マップの作成 など

○景観資源に新たな魅力を付加することで、新たな景観を創出する取組みを促進します。

- ・橋梁などの土木構造物をライトアップすることによる、新たな夜間景観の創出



新撰増補大坂大絵図（元禄4年）
(資料提供：大阪市立図書館)



隅田川のライトアップ
(写真提供：東武鉄道株式会社)

4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

○淀川が持つ景観魅力を感じながら、スポーツやレジャーを体験できる取組みが継続的に行われることで、人の活動そのものが淀川の新たな景観となるようにします。

- ・河川空間において、淀川の雄大な自然を満喫できるキャンプ、スポーツ大会の実施
- ・淀川の魅力や河川ならではの体験ができるイベントの実施 など



河川空間でのキャンプ
(写真提供：淀川河川事務所)



いかだ作り体験



河川空間でのマラソン
(写真提供：大阪・淀川市民マラソン実行委員会)

○淀川周辺で行われているまちづくり活動やイベントと連携した活動やにぎわいを創出することで、新たな景観を創出するとともに、周辺のまちづくりにもつながる取組みを促進します。

取組事例：枚方宿におけるくらわんか五六市とみなと五六市の連携



みなと五六市



枚方宿みなと五六市マップ
(資料提供：淀川河川事務所)



くらわんか五六市

4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信

○行政、まちづくり団体、企業等が、景観の特徴や見ごろとなる季節・時間帯などを積極的に発信するとともに、沿川住民や来訪者がSNS等で拡散したくなるような情報発信を促進します。

○情報発信の対象や目的にあわせて、人、もの、メディア、場所等の多様な手段による情報発信をおこないます。

- 人：環境学習・防災学習の場を通じた発信等
- もの：包装紙裏面に淀川沿川の魅力ポイントを印刷してPR等
- メディア：HP・SNSによる発信等
- 場所：観光スポット・イベント、電車等における発信等



河川学習会



SNSによる情報発信

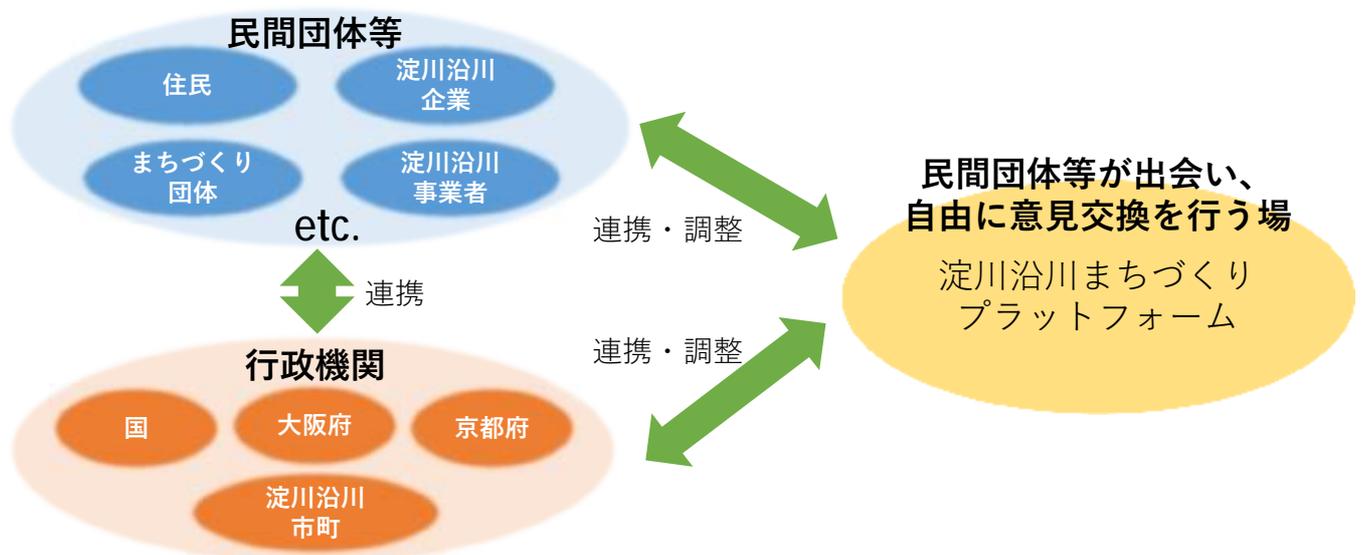
○まちづくり団体や淀川に誇りや愛着を持ち情報発信に精通した人等と連携し、景観資源にまつわる地域固有の情報等を発見、発掘し、淀川の新たな景観魅力として発信します。

むすび

- 淀川の沿川で様々な活動に取り組まれている、淀川沿川まちづくりプラットフォームメンバー等の皆様が、本方針を参考に、景観づくりにつながる取組みを先導的に進めることで、他の企業やまちづくり団体等の取組みにつながることを期待しています。
- 大阪府は、国や淀川沿川の自治体等と協力し、自然環境・景観の保全や都市インフラ・建築物の景観への配慮、各地域の取組みの相互交流等について調整を図ることで、これらの取組みを支援し、広域的な景観づくりを促進していきます。
- 本方針に記載の内容については、更なる淀川の魅力ある景観資源の発見、発掘に努め、必要に応じて更新していきます。

景観づくりの取組みイメージ

淀川で活動する人すべてが景観づくりのプレイヤー



※淀川沿川まちづくりプラットフォームは、沿川のまちづくり団体や舟運事業者等で構成され、八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、淀川沿川の将来像を共有することを目的とし、2017年8月に発足しました。淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標に掲げ、定期的に意見交換や連携事業が行われています。

【構成員】

- ・NPO法人 伏見観光協会
- ・一般社団法人 八幡市観光協会
- ・大山崎ふるさとガイドの会
- ・ふるさと島本案内ボランティアの会
- ・公益社団法人 高槻市観光協会
- ・NPO法人 枚方文化観光協会
- ・淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会
- ・ねや川水辺クラブ
- ・守口門真歴史街道推進協議会
- ・なにわ淀川花火大会運営委員会
- ・石清水なつかしい未来創造事業団
- ・京街道にぎわいづくり連絡会議
- ・大阪水上バス(株)
- ・一本松海運(株)
- ・伴ピーアール(株)
- ・京阪ホールディングス(株)
- ・旅Tomo-Planning

【オブザーバー】

- ・国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
- ・淀川河川公園管理センター
- ・京都府
- ・大阪府
- ・京都市
- ・八幡市
- ・大山崎町
- ・枚方市
- ・寝屋川市
- ・守口市
- ・島本町
- ・高槻市
- ・摂津市
- ・大阪市
- ・水都大阪コンソーシアム
- ・阪急電鉄(株)
- ・摂南大学

【事務局】

- ・大阪府 住宅まちづくり部 都市空間創造室

■参考文献

- 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所HP
(<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/index.html>)
- 水都大阪コンソーシアムHP
(<https://www.suito-osaka.jp/index.php>)
- すみよし歴史探検地図「住吉歩けば歴史に当たる」P9
(<http://www.city.osaka.lg.jp/sumiyoshi/page/0000078996.html>)

淀川における景観資源の活用事例



事例

- 淀川まるごと体験会
- 日没時刻の紹介
- 淀川浪漫紀行
- 大阪・淀川市民マラソン
- 淀川アーバンキャンプ
- 淀川わいわいガヤガヤ祭

○淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

○事例：淀川まるごと体験会

寝屋川再生ワークショップからかかわられてきた寝屋川市駅前のせせらぎ公園の完成後、市内の水路の再生へと活動が広がり、生きものや文化を視野に入れた淀川の再生をしたいという想いが芽生えたことがきっかけで、淀川点野地区での活動を始められたそうです。

淀川まるごと体験会のイベントはその活動の1つで、2008年から毎年夏に1回、参加者は100名前後、スタッフも合わせると150人～200人規模で実施されています。運営資金は、各団体の持ち出しを基本とし、資材も、市民団体、市役所、国土交通省等が各々で用意されています。主催団体の固定化と高齢化、資金面が課題のようです。

活動当初から点野地区が里川として整備されることを夢見て、まちづくりに市民が参加できる可能性を見つけるといふ志で取り組まれており、その献身的な活動を続けられたことも加味され、国土交通省の再整備のモデル地区に淀川沿川で唯一選定されました。

<取組み主体>

○主催：

- ・淀川まるごと体験会実行委員会
 - ・ねや川水辺クラブ
 - ・摂南大学エコシビル部・石田ゼミ
 - ・大阪府「私の水辺」大発表会北河内実行委員会
 - ・ねや川ユースネット
 - 摂南大学/大阪電気通信大学/ねや川水辺クラブJr.
 - 大阪府立大学工業高等専門学校、
 - 大阪府立西寝屋川高校生物部、
 - ・淀川管内河川レンジャー

○協力：

- ・水辺に親しむ会
- ・淀川左岸水防事務組合点野分団
- ・寝屋川市自然を学ぶ会
- ・淀川河川公園管理センター
- ・株式会社 エクセディ

○支援：

- ・国土交通省淀川河川事務所
- ・大阪府
- ・寝屋川市

<実施プログラム>

- ・Eボート、カヌー、SUP体験
- ・土のう積み体験
- ・レンガアーチづくり
- ・ヨシのコースター作り
- ・清掃活動など



○事例：日没時刻の紹介

淀川の夕景の魅力を体感してもらうため、自社施設内で日没時刻の紹介を行い、淀川の自然景観を楽しむ利用を促進されているものです。日没時刻を紹介するようになったきっかけは、淀川に沈む雄大な夕景をみなさまに見ていただきたいという思いからだったそうです。

日没時刻の掲示板を導入してから、徐々に夕景を目当てに来館される方も増え、最近では海外からの旅行客の方も来られるようになりました。大阪を代表するこの景観が世界に向けて発信されていくことを期待し、運営されています。

<取組み主体>

積水ハウス梅田オペレーション株式会社



梅田スカイビルの空中庭園展望台



○淀川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

○事例：淀川浪漫紀行

舟運を復活させるクルーズを始めるきっかけには、阪神淡路大震災が関係していました。大規模地震が発生した場合、道路、鉄道等が寸断されるおそれがあり、救援、機材の運搬等に水上交通が大変役立つとされているからです。2006年から試験的に運航され、2017年9月から淀川浪漫紀行の運航が開始されました。

その特徴のある船は、明治時代に淀川を往来した川蒸気船をモチーフとして作られたものです。

災害時も見据えながら、通常は淀川沿川の自然と歴史を再発見していただきたいという想いで運行されています。

<取組み主体>

○主催：大阪水上バス株式会社

○後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

- ・大阪府
- ・枚方市
- ・枚方文化観光協会
- ・淀川舟運整備推進協議会
- ・北大阪商工会議所

○協力：丸万寿司 / 割烹 藤

<船内プログラム>

- ・語り部による流域にまつわる歴史内容の等のアナウンス
- ・三十石船唄の演奏 など



○淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

○事例：大阪・淀川市民マラソン

大阪・淀川市民マラソンは、市民の参加および完走する事に意義を求め、市民自らが作りあげる市民参加型のマラソン大会として1997年から毎年11月に開催され、2018年度で第22回となります。このマラソンは老若男女を問わず、勝つ事、速く走る事を主目的とせず、誰もが気軽に楽しめるマラソンで、日本で初めての市民による手作りの市民マラソンであるとともに、河川敷のみを走る日本で最初のマラソンでもあります。

初回は、2千人弱の参加者数でしたが、第14回以降は、1万人以上の参加者数を維持されています。その魅力の1つに、普段は通れない「淀川大堰」を渡ることができることも挙げられます。

また、大会当日は参加される皆さんに一日「淀川美化委員会」として、淀川河川敷にゴミなどを放置しないような取組みも行われています。

コースである淀川河川公園を走る事により淀川流域の自然環境を見直し、ランナーの健康と走る環境を考えたエコマラソンを目指されています。

<取組み主体>

○主催：大阪・淀川市民マラソン実行委員会
ボランティアスタッフ

<実施プログラム>

- ・フルマラソン
- ・ハーフマラソン
- ・団体フル
- ・団体ハーフ

※団体は5人1チームとし、5人の平均タイムで競われます。



写真提供：大阪・淀川市民マラソン実行委員会

○事例：淀川アーバンキャンプ

「淀川の活性化と賑わい創出に向けた提言(大阪商工会議所)」を受け、2015年9月から取り組まれ、毎年開催されています。

公共空間である淀川河川公園西中島地区を利活用し、淀川の魅力の向上が図られています。

都心にいながら自然を楽しめる取組みで、2018年にはこれまでなかった河川空間で泊まれるプログラムを実施されました。

<取組み主体>

○主催：

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・大阪商工会議所

○共催：

第1回のみ国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

<実施プログラム>

- ・グローイングアップキャンプ
- ・手ぶらでセレクトキャンプ
- ・カヌー体験
- ・SUP体験
- ・Eポート（10人乗り手漕ぎポート）
- ・パラグライダープチ浮遊体験
- など



写真提供：淀川河川事務所

○事例：淀川わいわいガヤガヤ祭

淀川の河川敷を活用した子供の教育、子育て層の親子のふれあい憩いの場づくり、スポーツを通じた青少年育成を目的に2012年から毎年開催されています。

企業からの寄付を基本に運営されており、第7回目には約5200名の来場者がありました。

淀川右岸流域の事業者、団体、市民の憩いの場とし、絆を深めるとともに、防災、安全、環境、歴史、文化、福祉等を考えるきっかけづくりとなるようなイベントを行い、淀川右岸流域の地域文化の発展、活性化に寄与されています。

<取組み主体>

○主催：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会

○共催：淀川河川公園

○後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所
環境省近畿地方環境事務所 / 大阪府 / 摂津市
摂津市教育委員会 / 摂津市自治連合会
摂津市老人クラブ連合会 / 摂津市商工会
摂津ロータリークラブ / 摂津ライオンズクラブ
摂津市PTA協議会 / 一般社団法人摂津青年会議所
NPO法人日本防災士会 大阪府支部 摂津防災士会
摂津市国際交流協会

○協力：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
生物多様性センターサポートセンター /
自衛隊大阪地方協力本部 / 大阪銘木団地 /
大阪銘木青年会
各校区連合自治会：鳥飼・鳥飼北・鳥飼西・鳥飼東
味生・別府

<実施プログラム>

- ・淀川に関するイベント（淀川クルーズなど）
- ・防災関連コーナー
- ・青少年育成、遊びコーナー（ミニ電車、木工教室など）
- ・スポーツコーナー（フットサルなど）
- ・演奏、演舞、演芸（大道芸、紙芝居など）
- など



写真提供：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会

他の河川における景観資源の活用事例



事例

- 鈴鹿バルーンフェスティバル/鈴鹿川 [一級河川] (三重県)
- ライトアップ/隅田川 [一級河川] (東京都)
- 七條大橋をキレイにする会の活動/鴨川 [一級河川] (京都府)
- 遣唐使船レース/嘉瀬川 [一級河川] (佐賀県)
- こいのぼりフェスタ1000/芥川 [一級河川] (大阪府)
- やすらぎ堤/信濃川 [一級河川] (新潟県)

○川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

○事例：鈴鹿バルーンフェスティバル/鈴鹿川 [一級河川]（三重県）

鈴鹿バルーンフェスティバルは1992年に初開催され、2018年で27回目でした。当初、中部地方で熱気球がフライトできる場所を探していた中で、自然環境と都市がバランスよく共存した鈴鹿市が候補地となりました。以来、鈴鹿バルーンフェスティバルには全国からパイロットが集まり、大空を色とりどりの気球が彩る秋の風物詩となっています。

メイン会場となる河川緑地では様々な催しが行われ、来場者に楽しんでもらうための一つに体験搭乗を実施されています。河川緑地会場では限られた時間の中でできるだけ多くの方に体験してもらうことと、少しでも多くの熱気球を見ってもらう目的で熱気球5機で係留されており、上空から自然景観を楽しむことができます。

熱気球や競技を見に河川緑地会場または鈴鹿サーキット会場へ来場する方々は3日間で約16万6千人（2018年実績）でした。

今後も市民をはじめ、皆さんに熱気球と自然景観の魅力を知ってもらいたいという想いで活動されています。

<取組み主体>

鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

<利用内容>

- ・搭乗料金：中学生以上2000円、小学生1000円
未就学児は保護者1名につき2名まで無料
- ・搭乗人数：3,4人程度
- ・搭乗時間：5～6分

<係留飛行の条件>

- ・1機あたり50m×50m程度の場所（地上及び空中に障害物がないこと）
- ・アンカー車両の乗り入れ可であること（3～4台/機）



写真提供：鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

○川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

○事例：ライトアップ/隅田川 [一級河川]（東京都）

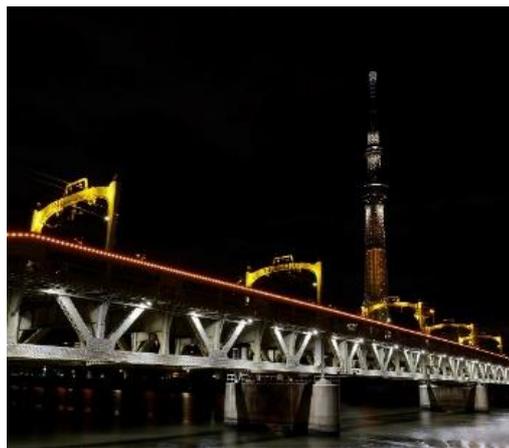
東武鉄道では、東武グループ中期経営計画の成長戦略において、集中投資を行う重点エリアを4か所定められており、その1つが浅草・東京スカイツリーエリアです。このエリアの賑わいの創出と回遊性の向上を目的として、「四季折々、浅草と東京スカイツリー®をつなぐ色彩の架け橋」をコンセプトに、東京都の支援のもと、2018年から自社管理橋梁（隅田川橋梁）のライトアップを開始されました。

ライトアップは、東京スカイツリーや隅田川を運行するクルーズ船等、浅草・東京スカイツリーエリアの様々な場所から見ることができ、沿線魅力向上、夜間景観の向上に寄与されています。

また、ランドマークである東京スカイツリーのライティングとのコラボレーションや桜まつり等の四季折々行われる地域のイベント等に応じたライトアップ等、相互連携により景観魅力を向上させる工夫もされています。

<取組み主体>

東武鉄道株式会社



写真提供：東武鉄道株式会社

○事例：七條大橋をキレイにする会の活動/鴨川 [一級河川]（京都府）

2013年にNPO京都景観フォーラムや地元住民の方で竣工100周年を祝った七条大橋ですが、七条大橋への関心はなかなか広まらず、しばらくは草やゴミだらけだったそうです。そこから、市民でできることで七条大橋をキレイにしようと、2015年7月7日に、有志12名で清掃活動を始められました。以降、七条大橋の魅力をたくさんの方に知っていただくことを目的に、毎月7日の9時に清掃活動が行われています。現在、徐々に周辺の住民、事業者、行政関係者、遠方のファンなどが参加され、毎回約50名の方が参加されています。さらに、始めは様々な動機で来られていた参加者同士が七条大橋がつなぐご縁でつながっていき、コラボ企画なども生まれています。

運営の初動期から市の助成金で活動を行っていたそうですが、徐々に自己資金で賄えるようにされています。また、2018年に行ったライトアップは寄付金も募られました。

さらに、当初は七条大橋の価値はあまり認識されていなかったそうですが、活動を進めるにつれ応援して下さる方が増え、市の様々な働きかけもあり、2018年11月に、国の登録有形文化財になることが決まりました。

<取組み主体>

○七條大橋をキレイにする会

<活動内容>

- ・毎月7日 9時から定期清掃活動と交流会
- ・広報宣伝活動…パンフレット作成、facebookでの情報発信、絵葉書・缶バッジ・てぬぐい作成、ミニ講座、各種イベント（ライトアップ他） など



写真提供：七條大橋をキレイにする会

○事例：遣唐使船レース/嘉瀬川 [一級河川]（佐賀県）

鑑真和上が佐賀の嘉瀬に上陸したことにちなんだ、歴史・文化を活用し、川と人とを繋ぐ手漕ぎ船レースです。1997年から毎年8月に開催し、2018年度で第22回となります。船は、当時の遣唐使船を模したもので、1チーム12～16名で構成され、45～50チームが参加されています。運営（資金源）は、協賛金で運営されています。

また、大会前日には、「親水事業」の原点である「川をきれいに大切に」の呼びかけのもと、レース会場及び嘉瀬川堤防で清掃活動が行われています。

毎年、選手団は県内外から毎年出場のベテランチーム、初出場チーム、ほか外国チームの参加もあり、会場全体から盛んな声援拍手の中接戦を繰り広げられ、家族や友人同士の親睦、官・民の事業運営協力、異業種交流の場となっています。

今後のボランティア活動も盛んになること、歴史が伝承されていくことを期待し、活動が行われています。

<取組み主体>

○主催：

さが鑑真和上まつり遣唐使船レース推進協議会
(スタッフは、産・官・民のスタッフ)

<実施プログラム>

- ・遣唐使船レース



写真提供：一般社団法人佐賀市観光協会

<参加内容>

- ・10,000円 / チーム
- ・1チーム選手12～16名まで
- ・コースL=500m (250m往復)

○川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

○事例：こいのぼりフェスタ1000/芥川 [一級河川]（大阪府）

<概要>

子供たちが健やかに育つことを願って、高槻の都市シンボルである芥川の河川愛護を目的に、1992年から開催されています。

1994年度には、川西連合自治会、真上コミュニティー協議会、高槻青年会議所など、地元が主体となって創設した「こいのぼりフェスタ1000推進協議会」によって、運営されています。

毎年4月29日(祝日)に開催するイベント日を挟んで約1,000匹のこいのぼりを芥川桜堤公園で掲揚されています。

このフェスタで使われているこいのぼりは、市民から寄贈されたものや、市内の幼稚園児などによる手作りこいのぼりを掲揚されています。

2018年には、約120もの企業や団体から協賛をいただき、事業がなされました。



写真提供：高槻市

<取組み主体>

○主催：こいのぼりフェスタ1000推進協議会

○事例：やすらぎ堤/信濃川 [一級河川]（新潟県）

<概要>

左右岸の河川敷きで、食事を楽しめるエリア、健康をサポートするエリアを特色位置づけ、市民や企業、行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを創出しています。

株式会社スノーピークによる管理は2017年からで、事務局は2名、その他、新潟市役所まちづくり推進課のご担当者様と営業期間中に店舗頂く出店者様（10店舗〜）など多くの方々の協力や思いで成り立っている事業です。

2018年の営業期間は、7月1日～10月14日の間で、事業計画は前年の年末から継続して立てられ、関係各所との調整等を慎重に行われています。

また、営業期間中は悪天候時などの現場対応等も事業の中で大きな配慮事項になっているそうです。

その甲斐もあって、毎年3万人を超える利用者が訪れ、そのアンケートの結果からも満足いただけているようです。

<取組み主体>

○主催：
新潟市、株式会社スノーピーク

○後援：
ミズベリングやすらぎ堤研究会

<実施プログラム>

- ・手ぶらでBBQ
- ・飲食ブースの出店 など

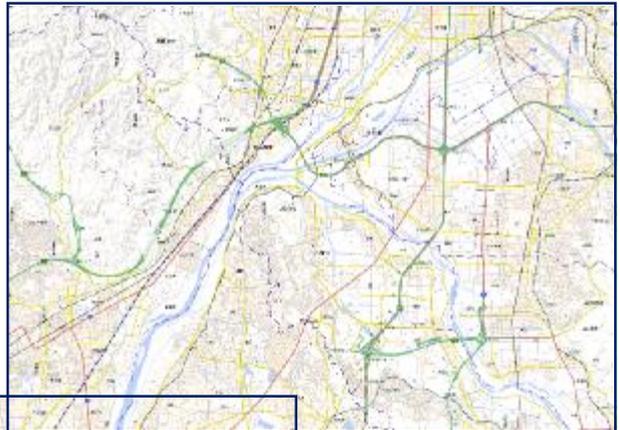


写真提供：株式会社スノーピーク

淀川の魅力ある景観マップ



景観マップ3の範囲
高槻市、島本町、大山崎町
枚方市、八幡市、京都市



P25-P26

景観マップ2の範囲
大阪市、摂津市、高槻市、
守口市、寝屋川市、枚方市



P23-P24

景観マップ1の範囲
大阪市エリア



P21-P22



範囲案内図

淀川の魅力ある景観マップ 1

1 新伝法大橋 1969年完成 (L=約860m)

2 伝法大橋 1942年完成 (L=約765m)

3 大塚切れ洪水碑

1917年に高槻市の大塚で堤防が決壊し、高槻市から下流の大阪市まで甚大な被害をもたらしました。浸水した水を排水するために西淀川区の堤防で「わざと切れ」が行われました。

写真提供: 大阪市西淀川区役所

4 海老江千潟

5 淀川大橋 1926年完成 (L=約724m)

6 海老江緊急用船着場 距離標右岸5.1km付添 (バース長約70m/エプロン長約130m)

7 花川千潟

8 大淀千潟

9 なにわ淀川花火大会 1989年から開催 2006年に千成花火大会から改名

毎年8月初旬に、淀川河川公園西中島地区と十三野草地区、大淀野草地区一体を主会場として開催しています。なにわ淀川花火大会運営委員会により、企画・実行され、地元商店、市民等の寄附により運営されています。

写真提供: なにわ淀川花火大会運営委員会

10 新北野緊急用船着場 距離標右岸6.3km付添 (バース長約60m/エプロン長約70m)

11 新十三大橋 1966年完成 (L=約792m)

12 十三渡し

13 十三大橋 1932年完成 (L=約681m)

14 梅田スカイビル

写真提供: 梅田スカイビル株式会社 撮影: 2018年5月16日午前10時58分

展望台から見える夕日は絶景として根付いています。施設内では、日没時刻を掲示する等の自然景観を楽しむための工夫がなされています。また、その特徴的な建物形態からランドマークになっています。

15 高層ビル群

うめきた2期など魅力的な開発が進む大阪都心部の対岸から望む風景は、静寂な水面と大都市の賑わいとのコントラストが美しい淀川ならではのものです。

撮影: 2017年12月23日午後6時49分

16 中津のヨシ原

写真提供: 大阪市漁業協同組合

淀川での漁は、現在も十三区で盛んに行われています。天然うなぎやベッコウなど、大阪の食文化を支えています。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図(地理院地図ズームレベル14標準地図)を複製したものです。(承認番号 平20済第 第1242号)
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

■ 干潟

潮が引くと砂や泥の陸が現れるところを干潟といいます。海水と淡水がはざり合い、養分が豊富なので、様々な生物が生息しています。かつては、淀川にも多くの干潟が存在しましたが、河川の整備や周辺の開発によりそのほとんどが失われました。近年は、自然保全の観点から再生されています。

⇒関連番号: 4 7 8 17 20

17 十三干潟

十三干潟は、淀川で最大の面積を持つ数少ない自然の干潟で、潮干狩りに訪れる人で賑わいます。



写真提供: 大阪市淀川区役所

18 淀川アーバンキャンプ (2015年から開催)



都会にいなから淀川の自然を感じられる取組みです。淀川の魅力を満喫できる、水辺のアクティビティや自然体験プログラムなどを楽しむ人々の活動は、都市部の新たな景観です。

写真提供: 淀川河川事務所

19 新淀川大橋

上流側 1964年完成 (L:約794 m)
下流側 1969年完成 (L:約813 m)

20 柴島干潟

21 長柄橋

1983年完成 (L:約656 m)



写真提供: 大阪市政設局

中央部の橋はニールセンローゼンというアーチ形の橋が採用されていて、浪速の名橋50選に選定されています。夜間にはライトアップが実施されており、広大な淀川の風景とマッチしています。

22 旧毛馬第一閉門

1907年完成



撮影: 2018年9月24日 午後1時15分

明治時代に実施された治水工事の際に淀川と旧淀川の船の往来を確保するために設置されました。重要文化財の旧毛馬第一閉門と伊丹空港に向かう飛行機とのギャップに、淀川沿川の移ろいを感じます。

23 毛馬橋

1960年完成 1979年拡張完成 (L:約150 m)

24 春風橋

1981年完成 (L:約105 m)

25 飛翔橋

1984年完成 (L:約103 m)

26 都島橋

1956年完成 1979年拡張完成 (L:約145 m)

27 源八橋

1936年完成 1971年拡張完成 (L:約201 m)

28 桜宮橋

1930年完成 (L:約169 m)

29 造幣局周辺のツツジ

明治時代初頭、衰退していた大阪を蘇らせるため、大久保利通は大阪に遷都しよじ蔵屋敷の一部を造幣局にしたとされています。現在でも有名な桜の通り抜けはこの頃から行なわれています。



撮影: 2017年4月30日 午前10時36分

大川(旧淀川)沿いは、造幣局をはじめ桜が有名ですが、ツツジの咲く季節(春〜梅雨頃)も数筆の時期としては過っており、川沿いの心地よい雰囲気を感じられます。

30 川崎橋

1978年完成 (L:約129 m)

31 天満橋

1935年完成 (L:約151 m)

32 八軒家浜防災船着場

33 観光船(八軒家浜船着場周辺)



撮影: 2018年4月1日 午前11時00分

八軒家浜船着場は、平安時代には瀬戸内と淀川を結ぶ拠点、江戸時代には京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する拠点として栄えていました。現代でも、水の都大阪の拠点として、賑わいを見せています。

34 平成OSAKA天の川伝説 (2009年から開催)



撮影: 2017年7月7日 午後7時53分

大阪市中を西流する大川は、かつては「天満川」とも呼ばれ、その川面に満天の星を映す様子は「地上の天の川」のようでした。現在、七夕の夜に、幻想的な景観を再現するイベントが開催されています。



干潟などの河口域で行われウジジミ、スズキ等が採れ、



1 毛馬閘門・毛馬水門・毛馬排水機場



普段、淀川の水は水門から大川に流れています。高潮や洪水の際は大川の水位が上がるため、排水機場より大堰より下流に排水する仕組みになっています。淀川舟運の定期航路の見所の1つです。

2 淀川大堰

1984年完成



撮影：2017年5月28日午後7時5分

通常、堰水の遡上防止と生活水の確保のため堰きとめていますが、洪水時は、下流に直接放水されます。等間隔で連続する塔が水面に反射する様子は美しく、時間の変化により、様々な表情を見せてくれます。

3 毛馬緊急用船着場

距離標右岸10.5km付近
バース長約60m/エプロン長約7.5m

4 淀川河川公園(毛馬地区)



淀川下流域の広大な河川空間の遠方にそびえる大都市のビル群は、摩天楼のようです。

5 柴島緊急用船着場

距離標右岸10.3km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

6 柴島浄水場

7 赤川ワンド

距離標左岸11.0km～11.4km付近

8 城東貨物線淀川橋梁

1929年完成
(L=約615m)



第二次世界大戦の戦火を耐え抜き、おおさか東線の開業に向けて複線化に着手する2013年まで、地域住民の生活道路として利用され、「赤川鉄橋」の通称で親しまれています。

9 豊里ワンド

距離標右岸11.9km～12.0km付近

10 菅原城北大橋

1989年完成、2014年無料開放
(L=約1,350m)

11 城北ワンド

距離標左岸11.4km～13.0km付近



撮影：2018年6月9日午後0時頃

城北公園付近に位置し、天然記念物・イダセンバラの生息場所となるなど、多様な生態系を形成しています。ワンドの環境を守るための活動等により、環境の保全がなされています。

12 平田の渡し (1970年廃止)

13 豊里大橋

距離標右岸14.6km付近

14 大桐ワンド

距離標左岸14.8km付近

15 下島ワンド

16 取水塔(一津屋取水場)



取水塔は、淀川の水を取り入れ、浄水場へ供給するための施設です。私たちが、淀川の水で暮らしていることを感じさせてくれます。

17 宮ノ下渡し (1954年廃止)

18 庭窪ワンド

距離標左岸16.4km～17.3km付近

19 庭窪浄水場

20 鳥飼大橋



写真提供：守口市

府道2本、近畿自動車道、大阪モールの4本の橋で構成されており、交通の大動脈としての役割を担っています。近辺に発生する葎は秋に色付き始め、淀川の四季を感じられる景観です。

21 佐太緊急用船着場

距離標左岸17.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

22 鳥飼の渡し (1975年廃止)

23 鳥飼ワンド

距離標右岸18.8km～19.3km付近

24 鳥飼緊急用船着場

距離標右岸19.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

26 鳥飼仁和寺大橋



写真提供：守口市

茨木市

玉島

鳥飼

仁和寺

鳥飼上地区

鳥飼下地区

佐太

大日

大久保町

大日

25 淀川わいわいガヤガヤ祭(2012年から開催)



撮影：2018年6月3日午後1時頃

淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会により、毎年初夏頃に開催されます。タイヤチューブに伏木で手づくりしたイカダに体験乗船、淀川クルーズ、水上オートバイ、キッズボートは淀川の魅力を満喫できるイベントです。

27 点野ワンド



写真提供：ねや川水辺クラブ

28 淀川まるごと体験会



写真提供：淀川区



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図(地理院地図)ズームレベル14標準地図を複製したものです。(承認番号 平20情保 第1222号)
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

1987年完成 (L=689m)
至自転車の利用料金は10円

川の景観とよく調和し、優れた機能美を持ち合わせた張橋です。料道路として完成され、地から「100円橋」という通称親しまれています。

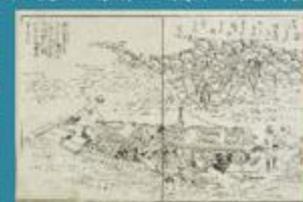
29 点野緊急用船着場 距離標右岸21.3km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

30 淀川新橋 1973年完成



■ 淀川舟運

自動車や鉄道がない時代、舟運は物資輸送の最も重要な手段で、淀川を人や物が行き交いました。江戸時代には、大阪のハ軒家と京都の伏見が三十石船によって、結ばれていた。この淀川の船旅の風景が「都名所図会」に描かれています。



また、船が航行する位置を乗客に知らせたと思われる三十石船唄は、大阪府無形民俗文化財に指定されています。

4名図 都名所図会 淀 (国際日本文化研究センター)

31 くらわんか発祥地碑



「くらわんか船」は、淀川を往来する三十石船に近づき、酒や食べ物を買う小舟をいり、発祥とされる柱本の淀川堤防上に発祥の地碑がたてられています。現在では、観光船がハ軒家から枚方まで定期運航するなど、淀川舟運の活性化が図られています。

32 三島江ワンド 距離標右岸23.2km

33 芥川合流部



船上から見た合流部の景観。青空、山並み、みどり、水面のコントラストが美しく、芥川の奥行きを感じる自然景観です。

34 水防活動



水防団は、大雨や高潮等の水害から命や財産を守るため、日々活動されています。淀川左岸水防事務組合主催の最大規模の訓練は、三矢地先で行われる「淀川防・防潮防合同水防訓練」で、約400人の方々が参加されています。

写真提供: 淀川左岸水防事務組合

35 枚方大橋 1930年完成 (L=689m)

36 大塚緊急用船着場 距離標右岸26.0km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

37 大塚切れ



大正6年(1917年)に発生した暴風雨で、淀川が増水し、芥川堤防が決壊し、淀川本川の大阪堤防が崩壊しました。濁流は、町を次々に飲み込んでいき、大被害をもたらしました。

写真提供: 高槻市

38 枚方水位観測所



枚方水位観測所は、新しい淀川の象徴として古くから生育する「ヨシ」のよびに大地に根ざして天に向かって伸びて行く姿を表しています。ここで観測された水位を基に避難情報などが出され、住民の命と生活を守っています。

撮影: 2018年9月23日午後0時頃

39 カヌー体験



淀川河川公園(枚方地区)には広大な芝生広場を有し、淀川の流れを感じながら散歩できます。カヌー体験ができる日もあり、他にも、この地区ならではのイベントが開催されています。

撮影: 2017年9月10日午前10時

⇒関連番号: 41

■ 淀川の渡し

自動車の普及により、淀川の各所で、橋梁が開通しましたが、それまでは、住民の主要な交通手段として两岸を結ぶ渡し船が淀川の各地で往来していました。

⇒関連番号: 12 17 22 40

40 枚方(大塚)の渡し(郵便屋の渡し)(1930年廃止)



枚方の三ツ矢には枚方地方で最も利用の多く親しまれた渡しがあり、郵便物も対岸の国鉄高槻駅まで運ばれていました。

41 枚方宿みなど五六市 (2017年から開催)



旧枚方宿の町屋沿いを使用し、毎月第2日曜日に開催されている「枚方宿(くらわんか五六市)と連綿し、淀川河川公園内において「みなど五六市」が同日開催されています。

42 枚方緊急用船着場 距離標右岸26.0km付近
バース長約70m/エプロン長約12~5.2m



緊急用船着場は、大規模地震等の災害が発生した際に河川の高度復旧や緊急物資の代替輸送経路などに活用できる施設です。

⇒関連番号: 3 5 21 24 36 42

2017年9月からは、船着場を活用し、舟運の定期運航(ハ軒家法~枚方)が行なわれています。

43 鍵屋別館



鍵屋資料館の隣にある鍵屋別館は、4階建てで、カフェや雑貨等の店舗が入っています。上階からは、淀川の自然景観を眺望できます。

写真提供: 枚方市

44 ひらかたパークの大観覧車



大観覧車は、最頂部約80mで、ランドマークとして親しまれています。観覧車からは、雄大な淀川の景観を楽しむことができます。また、舟運等の水上交通からも望めます。

1 淀川河川公園(大塚地区)



写真提供:高槻市

広々として心身ともにリラックスできる公園で、シロツメグサなどのかわいらしい野草が群生する春の季節は特にお薦めです。美しい州法も見られ、どこかの観光地にいるような錯覚にとらわれます。

2 磯島取水口

3 唐崎ワンド

距離標右岸24.2km付迄

4 前島の法面



写真提供:高槻市

毎年春に、上牧地区から柱本地区付近の淀川河川敷では、セイヨウカラシナが黄色い花を咲かせます。河川敷では、散歩やサイクリング、写真を撮る人などが訪れ、穏やかな春の日を楽しんでいます。

5 前島渡し

6 牧野ワンド

距離標右岸30.8km付迄

7 鶴殿のヨシ原



写真提供:高槻市

淀川で一番広いヨシ原です。初春にはヨシ原の保全と害草・害虫の駆除、不慮の火災防止などを目的にヨシ焼きが行われ、毎年多くの観光客が訪れます。



鶴殿に生えるヨシは、雅楽で用いられる楽器・箏の吹き口として珍重され、摂津国の名所を絵画と文章で紹介した地誌である「摂津名所図会」にも記載されているように、江戸時代には貢物として献上されていました。

8 樋之上ワンド

9 樟葉ワンド

10 山崎(橋本)渡し

豊臣秀吉による架橋を最後に代って現在の八幡市と対岸のです。西国街道から石清水へ渡る主要なルートであったこの港として賑わいました。



11 山崎津跡

山崎津跡とは、淀川水運の要る遺跡。平安時代より「淀」と「山崎」は重要な地点であり、都への様だ。

12 サントリー山崎蒸溜



写真提供:サントリー山崎蒸溜所

この山崎の地は、ウイスキーの水が豊富に湧き、更に深潤な成に欠かさない条件を満たした所は「日本のウイスキーのふるま

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図(地理院地図スームレベル14標準地図)を複製したものです。(承認番号 平30情第 第1242号)
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者が勝手に複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。



15 天王山からの眺望



淀川に一番近い山である天王山からも淀川(三川合流)を眺望できます。
1582年6月2日の本能寺の変から11日後、羽柴秀吉が天下取りの足がかりとなった山崎の戦いの古戦場が、淀川とともに窺え、明智光秀が降取りた地の利が見取れます。

16 御幸橋

初代1913年完成
2代目1930年完成
淀川御幸橋 2003年完成
木津川御幸橋 2010年完成

17 さくらであい館

2017年完成



写真提供:八幡市 写真提供:淀川河川公園管理センター
淀川河川公園甘割堤サービスセンターであるさくらであい館は、淀川三川合流域に立地しており、地上25mの高さから周辺の景色を一望できます。サイクルルートの休地地点やイベント会場としても、多くの人を訪れる場所となっています。

18 石清水八幡宮からの眺望



日本三大八幡の石清水八幡宮の展望台からは、甘割堤やさくらであい館を眺望できます。また、本殿等は、江戸中期の貴重な建築物として、2016年2月、国宝に指定されました。

19 淀大橋

1932年完成 (L=約267m)

20 久御山排水機場

21 巨椋池排水機場

22 宇治川大橋

1966年完成 (L=約546m)

23 巨椋大橋からの眺望(朝の川霧)



宇治の河原は、季節と時間で様々な表情を見せてくれます。川霧の下に、かつて巨椋池が広がっていたことを想像させてくれます。

撮影:2017年11月27日午前7時30分頃

24 三栖閘門

1929年完成 1964年閉鎖



親月橋から三栖閘門までの築堤によって生じる宇治川と淀川との水位差を解消し、船の航路を確保するため、整備され、経済・文化の発展に大きく貢献しました。1998年からは、十石舟が復活し、桜の季節をはじめ、賑わいを見せています。

撮影:2018年3月30日午前11時21分

13 甘割堤



写真提供:一般社団法人八幡市観光協会

大正時代、木津川の付け替え工事に伴ってできた木津川右岸堤防の一部です。全長約1.4kmの圧巻の桜並木です。当初は松並木が植えられており、「山城の橋立」とも呼ばれていましたが、害虫被害が多く、昭和53年に旧建設者によって、ソメイヨシノ等に植え替えられ、現在の景観となりました。桜の咲く季節には、祭りも開かれ、観光客で賑わいます。→関連番号:14

14 甘割堤さくらまつり

2018年に八幡堤まつりから改名



写真提供:京都府

散歩しながら、腰を下ろしてつるさながら、桜のトンネルをくぐりながら、様々な角度から桜並木の景観を楽しむことができ、多くの観光客で賑わいます。

である山崎津(港)に関わ

、南方・西方へ通じる最も

々な物資が運ばれていま

所

ントリーの創業者である鳥

信治郎氏は、ウイスキー

熟成に欠かせない条件を

たしていた鳥本町山崎を

溜溜の建設の地に選び、

正12年(1923年)に建設

着手しました。

大に適した良質な地下

な気候はウイスキーの熟

成に最適です。ここ山崎蒸

溜52」として親しまれて



大阪府 住宅まちづくり部 都市空間創造室

〒559-8555

大阪市住之江区南港北1丁目14-16大阪府咲洲庁舎31階

TEL：06-6941-0351

淀川沿川のまちづくり

検索